

入域観光客統計概況 —平成19年度分—

平成19年度の入域観光客数は、5,892,300人。
前年度比は+3.3%(+187,200人)で、過去最高の記録となった。

<平成19年度ビジットおきなわ計画目標値 590万人>

1. 国内外別入域状況

| | | | | | |
|----|------------|-------|---|----------|-----------|
| 国内 | 5,703,500人 | 前年度比 | + | 95,200人 | (+ 1.7%) |
| 外国 | 188,800人 | 前年度比 | + | 92,000人 | (+ 95.0%) |
| 合計 | 5,892,300人 | 前年同月比 | + | 187,200人 | (+ 3.3%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | | | |
|------|------------|-------|---|----------|----------|-----|-------|
| 東京 | 2,754,200人 | 前年同月比 | + | 129,300人 | (+ 4.9%) | 構成比 | 46.7% |
| 関西方面 | 1,110,300人 | 前年同月比 | + | 13,100人 | (+ 1.2%) | 構成比 | 18.8% |
| 福岡方面 | 677,200人 | 前年同月比 | ± | 0人 | (± 0.0%) | 構成比 | 11.5% |
| 名古屋 | 513,400人 | 前年同月比 | + | 22,800人 | (+ 4.6%) | 構成比 | 8.7% |

3. 月別入域状況

| | 平成19年度 | | (参考)平成18年度 | |
|-----|-----------|-----------|------------|----------|
| | 総数 | (うち外国人) | 総数 | (うち外国人) |
| 4月 | 475,300 | (8,100) | 453,400 | (6,300) |
| 5月 | 420,400 | (8,000) | 417,900 | (7,800) |
| 6月 | 417,200 | (9,400) | 404,300 | (6,900) |
| 7月 | 477,600 | (24,000) | 461,300 | (8,700) |
| 8月 | 614,200 | (19,700) | 569,200 | (7,600) |
| 9月 | 528,400 | (21,200) | 490,400 | (6,500) |
| 10月 | 519,700 | (31,400) | 519,900 | (10,900) |
| 11月 | 486,300 | (17,700) | 474,500 | (12,500) |
| 12月 | 471,000 | (11,200) | 455,100 | (5,700) |
| 1月 | 434,700 | (8,900) | 435,800 | (7,100) |
| 2月 | 483,800 | (16,200) | 465,600 | (10,000) |
| 3月 | 563,700 | (13,000) | 557,700 | (6,800) |
| 年度計 | 5,892,300 | (188,800) | 5,705,100 | (96,800) |

4. 入域観光客増加の主な要因

<国内客>

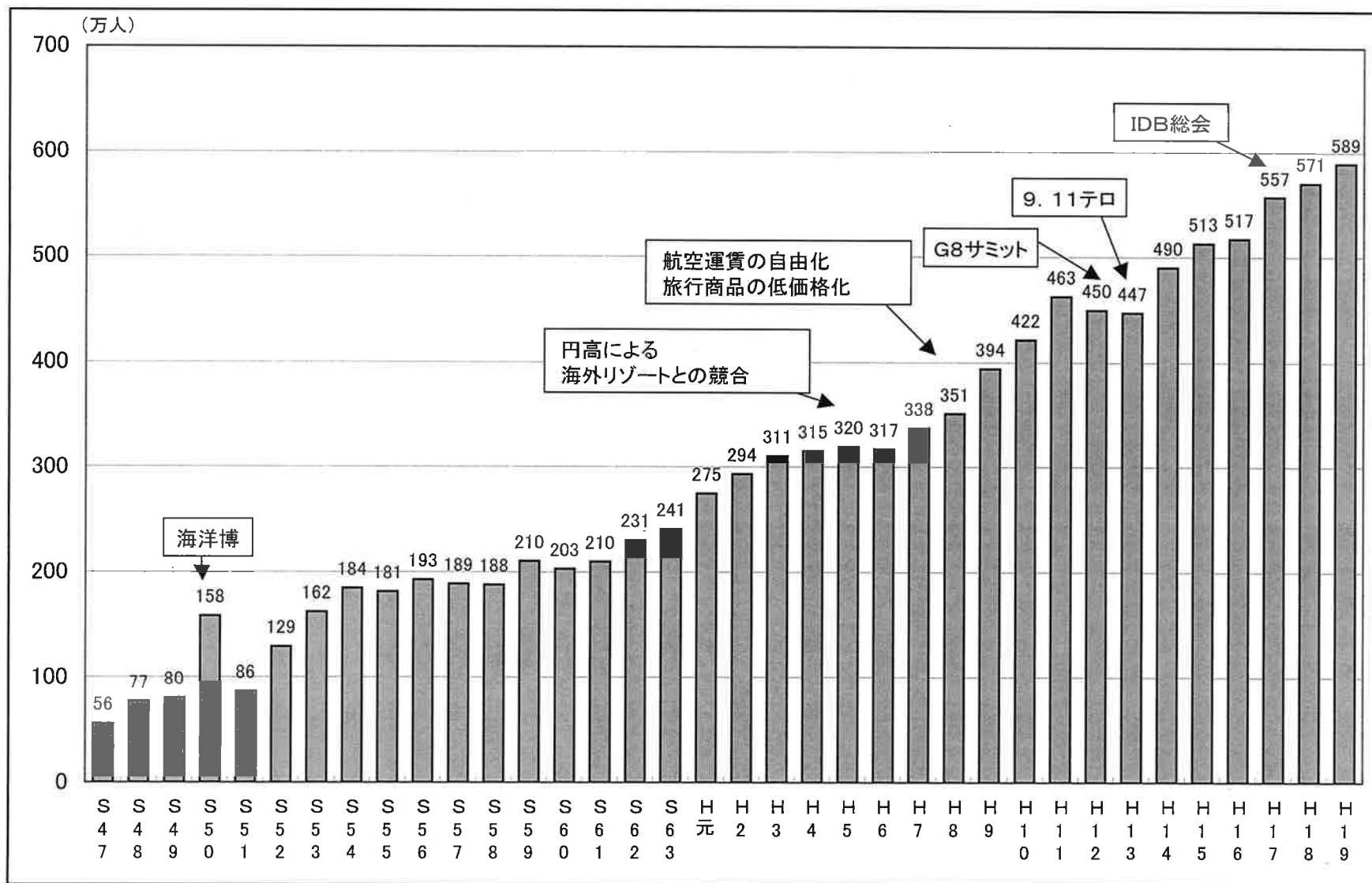
- 沖縄への関心・人気の継続
- 航空会社の新規路線開設及び主要路線における増便
- 宿泊施設の増加等による観光客受け入れ体制の充実
- 沖縄リゾートウェディングの増加
- 官民一体となった誘客キャンペーン

<外国客>

- 定期クルーズ船の運航再開
- 台湾、香港、韓国等からの航空チャーター便の増加
- 台湾の航空会社の沖縄路線の販売強化

担当:観光企画課 三和(みわ)
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

入域観光客数の推移(年度)



入域観光客統計概況

—平成19年4月分—

4月の入域観光客数は、475,300人。前年同月比は+4.8% (+21,900人)で、同月としては過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | |
|-----|----------|-------|----------|-----------|
| 国内： | 467,200人 | 前年同月比 | +20,100人 | (+ 4.5%) |
| 海外： | 8,100人 | 前年同月比 | +1,800人 | (+ 28.6%) |
| 合計： | 475,300人 | 前年同月比 | +21,900人 | (+ 4.8%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | | |
|----------|----------|-------|----------|-----------|-----|-------|
| 東京： | 210,900人 | 前年同月比 | +13,200人 | (+ 6.7%) | 構成比 | 44.4% |
| 関西方面： | 94,700人 | 前年同月比 | +2,100人 | (+ 2.3%) | 構成比 | 19.9% |
| (内訳) 伊丹： | 24,600人 | 前年同月比 | △1,900人 | (△ 7.2%) | 構成比 | 5.2% |
| 関西： | 46,000人 | 前年同月比 | △200人 | (△ 0.4%) | 構成比 | 9.7% |
| 神戸： | 24,100人 | 前年同月比 | +4,200人 | (+21.1%) | 構成比 | 5.1% |
| 福岡方面： | 53,800人 | 前年同月比 | +400人 | (+ 0.7%) | 構成比 | 11.3% |
| (内訳) 福岡： | 50,800人 | 前年同月比 | △100人 | (△ 0.2%) | 構成比 | 10.7% |
| 北九州： | 3,000人 | 前年同月比 | +500人 | (+ 20.0%) | 構成比 | 0.6% |
| 名古屋： | 41,800人 | 前年同月比 | +1,700人 | (+ 4.2%) | 構成比 | 8.8% |

3. 概況と見通し

国内客については、ゴールデンウィークの日並びがよかったことによる大幅増や、提供座席数の増えた東京方面を中心に個人客が好調であったことから、前年実績を上回った。

外国客については、香港からのチャーター便が5便あったことや、台湾の航空会社の沖縄路線の販売強化の継続等により、前年実績を大きく上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、梅雨どきのため、予約の出足が鈍い面があるが、修学旅行や個人客が好調であることから、堅調に推移するものと見込まれる。

外国客についても、台湾の航空会社の沖縄路線の販売強化の継続に加え、台湾—石垣のチャーター便の運航が予定されていることから、堅調に推移するものと見込まれる。

担当：観光企画課 三和
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 増便に伴う提供座席数の増加や、個人やグループのレンタカープランが好調であったことから、前年実績を上回った。
- 夏に向けて増便があることから、堅調に推移するものと見込まれる。北海道 (サミット効果) や宮崎 (東国原知事効果) への旅行商品が好調なことから、沖縄方面への影響の可能性もある。

大阪事務所 (関西地区)

- 団体客の集客はよくなかったものの、それを上回って個人客が好調であったこと及び増便に伴う提供座席数の増加等により、前年実績を上回った。
- 中学校の修学旅行が堅調なうえ、5月、6月も個人客が好調と見込まれる。

福岡案内所 (九州・山口地区)

- 4月末の連休が前年に比べ堅調であったため、前年実績をわずかに上回った。団体旅行は不調であったが、低価格の個人旅行が堅調となっている。
- 6月は長雨が心配されており様子見の状況であるが、7月以降は前年並みと見込まれる。

名古屋情報センター (名古屋地区)

- 4月のゴールデンウィークの日並びがよかったこと及び春休みの需要が年々拡大基調にあることから、前年実績を上回った。
- 5月はゴールデンウィークの日並びが昨年より悪いものの、個人型商品は回復のきざしがあり、夏商品、お盆の予約は順調に始まっている。

2. 海外

台北事務所

- 航空会社との連携による“沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”が継続されていること、及び“統一パック商品”の販売が好調であること、台湾の連休が多かったこと、4月はじめに航空会社とタイアップして台湾マスコミを招聘したことに伴うメディアへの沖縄の露出が集中的に増えたことなどにより、前年実績を上回った。
- “沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”及び“統一パック商品”の販売が継続され、また、5月に3回、6月に5回の予定で石垣へのチャーター便が予定されていることから、堅調に推移するものと見込まれる。

韓国事務所

- オフシーズンのためパッケージ商品の集客は低迷したが、昨年同期から本格的に販売が開始されたフリーパターンの旅行商品が拡大されたこともあり、前年並みの実績を維持することができた。
- 今後は、減便の影響やホテルの確保難等から、客数増は厳しい状況にあると見込まれる。

上海事務所

- 特にツアーの造成等がなく、微増にとどまった。
- 労働節の連休 (5/1~5/6) を利用したチャーター便が5月1日及び2日にそれぞれ1便ずつあり、前年同期より1便増となっているため、入域客数の伸びが予想される。

入域観光客統計概況

－平成 19 年 5 月分－

5月の入域観光客数は、420,400人。前年同月比は+0.6% (+2,500人)で、同月としては過去最高の記録となった。
 4月～5月の入域観光客数の累計は、895,700人。前年同期比は+2.8% (+24,400人)で、同期間の過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | |
|-----|----------|-------|----------|----------|
| 国内： | 412,400人 | 前年同月比 | + 2,300人 | (+ 0.6%) |
| 海外： | 8,000人 | 前年同月比 | + 200人 | (+ 2.6%) |
| 合計： | 420,400人 | 前年同月比 | + 2,500人 | (+ 0.6%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | |
|-------|----------|---------|-------------------------|-----------|
| 東京： | 171,500人 | 前年同月比 | + 6,600人 (+ 4.0%) | 構成比40.8% |
| 関西方面： | 96,600人 | 前年同月比 | △ 1,100人 (△ 1.1%) | 構成比23.0% |
| (内訳) | 伊丹： | 25,500人 | 前年同月比 △ 1,800人 (△ 6.6%) | 構成比 6.1% |
| | 関西： | 45,000人 | 前年同月比 △ 3,500人 (△ 7.2%) | 構成比10.7% |
| | 神戸： | 26,100人 | 前年同月比 + 4,200人 (+19.2%) | 構成比 6.2% |
| 福岡方面： | 45,400人 | 前年同月比 | △ 3,200人 (△ 6.3%) | 構成比11.3% |
| (内訳) | 福岡： | 45,400人 | 前年同月比 △ 2,900人 (△ 6.0%) | 構成比 10.8% |
| | 北九州： | 2,000人 | 前年同月比 △ 300人 (△13.0%) | 構成比 0.5% |
| 名古屋： | 33,900人 | 前年同月比 | △ 1,300人 (△ 3.7%) | 構成比 8.1% |

3. 概況と見通し

国内客については、5月のゴールデンウィーク期間が前年より1日少なかったことなどによる影響が大きかったものの、提供座席数の増えた東京方面が好調であったことから、前年実績を上回った。

外国客については、香港、台北、上海からのチャーター便があったことや、台湾の航空会社の沖縄路線の販売強化の継続等により、前年実績を上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、梅雨どきは出足が鈍い面があるが、夏場に向けてファミリー向けツアーなどが好調なことから、堅調に推移するものと見込まれる。

外国客についても、香港、台北からのチャーター便の運航が予定されているほか、7月から台湾からのクルーズ船の定期運航が始まることから、好調に推移するものと見込まれる。

担当：観光企画課 三和
 TEL 098-866-2763
 FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- ゴールデンウィーク明けの沖縄旅行商品の価格が前年同時期より高くなった影響がみられたものの、提供座席数の増加により、前年実績を上回った。
- 昨年と比較して伸びは幾分鈍い傾向にある。北海道 (サミット効果) や宮崎 (東国原知事効果) への旅行商品が好調なことから、沖縄方面への影響の可能性はある。

大阪事務所 (関西地区)

- 5月のゴールデンウィーク期間が前年より1日少なかったことや、伊丹から神戸、関西への便のシフトや発着時間帯の変動がまだ十分浸透していないことの影響があったものの、個人客が好調に推移していることから、ほぼ前年並の実績となった。
- 全体としては動きが鈍いが、旅行社によっては、夏休み前のファミリー向けツアーの予約先取り企画などが好調となっている。

福岡案内所 (九州・山口地区)

- 航空機材の縮小や石垣直行便の廃止による提供座席数の減などの影響により、前年実績を下回った。
- 6月～7月は出足がよくない状況だが、夏場の商品の販売状況は順調である。

名古屋情報センター (名古屋地区)

- 航空機材の大型化により提供座席数は増加したものの、5月のゴールデンウィーク期間が前年より1日少なかったことにより、前年実績を下回った。
- 6月は梅雨のイメージと航空運賃上昇の影響により、値頃感のある企画を出せていない状況であるが、7月はファミリー層を中心に動きがよい。夏場に向けては堅調に推移していくものと見込まれる。

2. 海外

台北事務所

- 石垣島へのチャーター便運航、航空会社との連携による“沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”が継続されていること、“統一パック商品”の販売が好調であること及び台湾の連休があったことなどにより、前年実績を上回った。
- 7月から再開されるスタークルーズ社の台湾-沖縄クルーズは、11月まで運航が予定されており、また、“沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”及び“統一パック商品”の販売が継続されることから、大幅な増加が見込まれる。

韓国事務所

- 石垣島へのチャーター便運航 (台北経由) や、韓国で5月24日から27日までの連休があったことなどにより、前年実績を上回った。
- 6月は石垣島へのチャーター便運航やフリーパターンの旅行商品が増加することなどにより前年並み実績が期待できるが、夏場は、前年より便数が減となること及びホテル手配が困難となるため、客数増は厳しい状況にある。

上海事務所

- 5月のゴールデンウィーク (労働節) にあわせて2便のチャーター便が就航したが、船による入域者数の減があったため、前年実績を下回った。
- 6月は特にツアーの予定はないが、7月から9月にかけて5回分のツアー募集があることや、夏休み期間に向けた家族向け旅行プランの計画があることから、堅調に推移するものと見込まれる。

入域観光客統計概況

—平成19年6月分—

6月の入域観光客数は、417,200人。前年同月比は+3.2%(+12,900人)で、同月としては過去最高の記録となった。

4月～6月の入域観光客数の累計は、1,312,900人。前年度同期比は+2.9%(+37,300人)で、同期間の過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | | |
|----|----------|-------|---|---------|-----------|
| 国内 | 407,800人 | 前年同月比 | + | 10,400人 | (+ 2.6%) |
| 海外 | 9,400人 | 前年同月比 | + | 2,500人 | (+ 36.2%) |
| 合計 | 417,200人 | 前年同月比 | + | 12,900人 | (+ 3.2%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | | | | |
|------|----------|---------|-------|---------|-----------|-----------|-------|-------|
| 東京 | 194,800人 | 前年同月比 | + | 13,400人 | (+ 7.4%) | 構成比 | 46.7% | |
| 関西方面 | 77,400人 | 前年同月比 | △ | 6,900人 | (△ 8.2%) | 構成比 | 18.6% | |
| (内訳) | 伊丹 | 21,500人 | 前年同月比 | △ | 2,200人 | (△ 9.3%) | 構成比 | 5.2% |
| | 関西 | 36,100人 | 前年同月比 | △ | 6,400人 | (△ 15.1%) | 構成比 | 8.7% |
| | 神戸 | 19,800人 | 前年同月比 | + | 1,700人 | (+ 9.4%) | 構成比 | 4.7% |
| 福岡方面 | 49,900人 | 前年同月比 | △ | 300人 | (△ 0.6%) | 構成比 | 12.0% | |
| (内訳) | 福岡 | 47,700人 | 前年同月比 | △ | 200人 | (△ 0.4%) | 構成比 | 11.4% |
| | 北九州 | 2,200人 | 前年同月比 | △ | 100人 | (△ 4.3%) | 構成比 | 0.5% |
| 名古屋 | 39,000人 | 前年同月比 | + | 4,100人 | (+ 11.7%) | 構成比 | 9.3% | |

3. 概況と見通し

国内客については、提供座席数の増加した東京方面及び利用しやすい午前中に大型の航空機材の投入のあった名古屋方面が好調であったことから、前年実績を上回った。

外国客については、香港、台北からのチャーター便があったことや台湾の航空会社の沖縄路線の販売強化の継続等により、前年実績を上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、他方面との競合があるものの、夏向けの商品の予約・販売が好調であることから、堅調に推移するものと見込まれる。

外国客については、香港からのチャーター便の運航が予定されているほか、7月から台湾からのクルーズ船の定期運航が始まることから、好調に推移するものと見込まれる。

担当:観光企画課 三和
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

- 航空会社の増便にともなう提供座席数の増加や、低運賃の便の利用が好調であったため、前年実績を上回った。
- 夏休みの予約状況は堅調であるが、北海道や宮崎への旅行商品が好調なことから、沖縄方面への影響の可能性がある。

大阪事務所(関西地区)

- 航空機材の小型化や離島直行便の廃止により提供座席数が減少したことなどにより、前年実績を下回った。
- 7月から神戸-那覇、神戸-石垣の新路線が開設されるなど航空会社の増便があり、夏休み向け商品の販売も順調なため、好調に推移するものと見込まれる。

福岡案内所(福岡地区)

- 航空機材の小型化や石垣直行便の廃止により提供座席数が減少したことなどにより、前年実績を下回った。
- 7月は北海道旅行が好調で沖縄は出足がよくない状況だが、8月、9月の商品の販売状況は順調である。

名古屋情報センター(名古屋地区)

- 午前中の利用しやすい時間帯に大型の航空機材が投入されたことやインターネット販売の旅行商品の販売が好調であったことなどにより、前年実績を上回った。
- 夏の沖縄ツアーは定着しており、各旅行社の商品販売も好調を維持していくものと見込まれる。

2. 海外

台北事務所(台湾)

- チャーター便運航、航空会社との連携による“沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”が継続されていること、“統一パック商品”の販売が好調であること及び台湾の連休があったことなどにより、前年実績を上回った。
- 7月から再開されるスタークルーズ社の台湾-沖縄クルーズは、11月まで運航が予定されており、また、“沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”及び“統一パック商品”の販売が継続されることから、大幅な増加が見込まれる。

韓国事務所(韓国)

- パッケージツアーの集客はよくなかったものの、フリーツアーが好調であったこと、インセンティブツアーがあったこと、石垣島へのチャーター便運航(台北経由)があったことなどにより、前年実績を上回った。
- 7月から航空会社の運航曜日が変更になることや、夏場はホテル手配が困難となることから、商品造成が困難となり、客数増は厳しい状況にある。

上海事務所(中国本土)

- 大手旅行社の沖縄向けツアーがなかったことから、前年実績を下回った。
- 7月はクルーズ船の入港にともない、中国人観光客の大幅増が見込まれる。8月以降はインセンティブツアーが予定されているほか、ツアー商品造成の動きがあることから、堅調に推移するものと見込まれる。9月に予定されている双方向チャーター便の申込状況も好調となっている。

入域観光客統計概況

—平成19年7月分—

7月の入域観光客数は、477,600人。前年同月比は+3.5%(+16,300人)で、同月としては過去2番目の記録となった。

4月～7月の入域観光客数の累計は、1,790,500人。前年度同期比は+3.1%(+53,600人)で、同期間の過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | | |
|----|----------|-------|---|---------|------------|
| 国内 | 453,600人 | 前年同月比 | + | 1,000人 | (+ 0.2%) |
| 海外 | 24,000人 | 前年同月比 | + | 15,300人 | (+ 175.9%) |
| 合計 | 477,600人 | 前年同月比 | + | 16,300人 | (+ 3.5%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | | | | |
|------|----------|---------|-------|--------|----------|-----------|-------|-------|
| 東京 | 233,600人 | 前年同月比 | + | 7,400人 | (+ 3.3%) | 構成比 | 48.9% | |
| 関西方面 | 89,900人 | 前年同月比 | △ | 1,300人 | (△ 1.4%) | 構成比 | 18.8% | |
| (内訳) | 伊丹 | 26,300人 | 前年同月比 | △ | 4,200人 | (△ 13.8%) | 構成比 | 5.5% |
| | 関西 | 37,300人 | 前年同月比 | △ | 4,400人 | (△ 10.6%) | 構成比 | 7.8% |
| | 神戸 | 26,300人 | 前年同月比 | + | 7,300人 | (+ 38.4%) | 構成比 | 5.5% |
| 福岡方面 | 50,300人 | 前年同月比 | △ | 1,700人 | (△ 3.3%) | 構成比 | 10.5% | |
| (内訳) | 福岡 | 47,900人 | 前年同月比 | △ | 1,400人 | (△ 2.8%) | 構成比 | 10.0% |
| | 北九州 | 2,400人 | 前年同月比 | △ | 300人 | (△ 11.1%) | 構成比 | 0.5% |
| 名古屋 | 38,700人 | 前年同月比 | + | 300人 | (+ 0.8%) | 構成比 | 8.1% | |

3. 概況と見通し

国内客については、台風4号の影響によるキャンセル等があったものの、航空会社の新規路線の開設や増便があったことにより、前年並実績を維持した。

外国客については、定期クルーズ船の運航再開、台湾の航空会社の沖縄路線の販売強化の継続等により、前年実績を大幅に上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、家族連れや若年層を中心に予約が好調であることから、堅調に推移するものと見込まれる。

外国客については、海路では、台湾からのクルーズ船の定期運航に加え、不定期のクルーズ船の寄港も予定されていることから、好調に推移するものと見込まれる。空路についても、台湾、韓国、中国からのチャーター便運航が予定されているため、順調に推移するものと見込まれる。

なお、8月20日に発生した中華航空機炎上事故については、幸いにも乗客に死傷者が出なかったこと、台湾では沖縄旅行のキャンセル等が発生していないことなどから、今後の沖縄観光全体への大きな影響はないとみられる。

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

- 航空会社の増便にともなう提供座席数の増加や、夏休みに入っでの観光客数が好調であったため、前年実績を上回った。
- 夏休みは好調に推移するものと見込まれるが、夏休み明けの秋以降、北海道方面が好調なことから、沖縄方面への影響の可能性はある。

大阪事務所(関西地区)

- 旅行代理店等の集客は前年並であったが、台風4号の影響による欠航、キャンセルがあり、前年実績をわずかに下回った。
- 8月中旬から9月にかけて、若年層を中心に予約状況が前年を上回っており、また、7月から神戸-那覇、神戸-石垣の新路線が開設されたことなど、航空会社の増便もあるため、好調に推移するものと見込まれる。

福岡案内所(福岡地区)

- 台風4号の影響による欠航、キャンセルが多かったこと、大分-那覇線が廃止になったことにより、前年実績を下回った。
- 8月は中旬頃まで家族連れを中心に好調に推移している。また、若年層が夏休みを8月から、旅行代金の安くなる9月に移行する傾向があり、順調に推移していくものと見込まれる。

名古屋情報センター(名古屋地区)

- 台風4号によるキャンセルが発生したものの、航空会社から旅行会社への座席販売の働きかけが強化されたこと、午前中の利用しやすい時間帯に大型の航空機材が投入されたことにより、搭乗率が上昇した結果、前年実績を上回った。
- 8月以降はファミリー層の予約が前年を上回っている。9月は低価格商品の販売が期待される。

2. 海外

台北事務所(台湾)

- 7月からスタークルーズ社の台湾-沖縄クルーズの定期運航が再開されたことにより、海路客が大幅に増加した。また、空路も、航空会社との連携による“沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”が継続されていること及び“統一パック商品”の販売が好調であることにより、前年実績を上回った。
- スタークルーズ社の台湾-沖縄クルーズは10月頃まで運航が予定されており、また、9月、10月は高雄からのチャーター便も予定されているため、順調に推移するものと見込まれる。

韓国事務所(韓国)

- 家族連れなどの個人旅行が順調に増加していることに加え、パッケージ商品の販売も好調であったことから、前年実績を上回った。
- 8月は、航空会社の運航曜日に変更になった影響や、ホテル手配が困難となる課題があるものの、家族連れなどの個人旅行が着実に増加しているため、前年並の実績が見込まれる。9月は、5日間の旧盆連休があり定期便の集客も順調なうえ、9月末から10月にはチャーター便の運航も予定されていることから、好調に推移することが見込まれている。

上海事務所(中国本土)

- クルーズ船「コスタ・アレグラ号」の寄港等により、海路客が大幅に増加した。
- 空路では、8月、9月はツアーや社員旅行が予定されているほか、9月、10月には双方向チャーター便が予定されている。また、海路では、10月にクルーズ船「コスタ・アレグラ号」の寄港が2便予定されているため、好調に推移するものと見込まれる。

入域観光客統計概況

—平成19年8月分—

8月の入域観光客数は、614,200人。前年同月比は+7.9%(+45,000人)であった。なお、60万人を超えたのは今回が初めてであり、月間の入域観光客数としては過去最高の記録となった。

4月～8月の入域観光客数の累計は、2,404,700人。前年度同期比は+4.3%(+98,600人)で、同期間の過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | |
|----|-----------|---------|----------|--------------|
| 国内 | 594,500 人 | 前年同月比 + | 32,900 人 | (+ 5.9 %) |
| 海外 | 19,700 人 | 前年同月比 + | 12,100 人 | (+ 159.2 %) |
| 合計 | 614,200 人 | 前年同月比 + | 45,000 人 | (+ 7.9 %) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | | |
|------|-----------|----------|----------|------------|-------------|------------|
| 東京 | 288,900 人 | 前年同月比 + | 21,500 人 | (+ 8.0 %) | 構成比 47.0 % | |
| 関西方面 | 127,900 人 | 前年同月比 + | 6,300 人 | (+ 5.2 %) | 構成比 20.8 % | |
| (内訳) | 伊丹 | 37,700 人 | 前年同月比 Δ | 3,300 人 | (Δ 8.0 %) | 構成比 6.1 % |
| | 関西 | 50,600 人 | 前年同月比 Δ | 2,600 人 | (Δ 4.9 %) | 構成比 8.2 % |
| | 神戸 | 39,600 人 | 前年同月比 + | 12,200 人 | (+ 44.5 %) | 構成比 6.4 % |
| 福岡方面 | 69,000 人 | 前年同月比 + | 3,300 人 | (+ 5.0 %) | 構成比 11.2 % | |
| (内訳) | 福岡 | 65,200 人 | 前年同月比 + | 3,000 人 | (+ 4.8 %) | 構成比 10.6 % |
| | 北九州 | 300 人 | 前年同月比 + | 300 人 | (+ 8.6 %) | 構成比 0.6 % |
| 名古屋 | 53,200 人 | 前年同月比 + | 3,900 人 | (+ 7.9 %) | 構成比 8.7 % | |

3. 概況と見通し

国内客については、航空会社の新規路線の開設や増便があったこと及び台風による大きな影響がなかったことにより、前年実績を大幅に上回った。

外国客については、定期クルーズ船の運航再開、香港からのチャーター便の増加、台湾の航空会社の沖縄路線の販売強化の継続等により、前年実績を大幅に上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、航空会社の増便が予定されている東京、名古屋方面を中心に、おおむね好調に推移するものと見込まれる。

外国客については、海路では、台湾からのクルーズ船の定期運航に加え、不定期のクルーズ船の寄港も予定されていることから、好調に推移するものと見込まれる。空路についても、台湾、韓国、中国からのチャーター便運航が予定されているため、順調に推移するものと見込まれる。

担当: 観光企画課 三和
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

- 航空会社の増便にともなう提供座席数の増加や、夏休みに入っただけの観光客数が好調であったため、前年実績を大きく上回った。
- 11月から日本航空及びスカイマークエアラインズの羽田-那覇線がそれぞれ1便増便されるため、好調を維持していくものと見込まれる。

大阪事務所(関西地区)

- 航空会社の新路線開設、夏期季節定期便の就航にともなう提供座席数の増加及び個人旅行や夏休みのファミリー向け商品が好調であったことなどにより、前年実績を上回った。
- 11月から日本航空の関空-沖縄線が5便から4便に減便され、また、航空会社や旅行会社の予約状況もあまりよくないため、送客増は厳しいものと見込まれる。

福岡案内所(福岡地区)

- 夏期臨時便の運航等による航空会社の提供座席数の増加及び台風による大きな影響がなかったことなどにより、前年実績を上回った。
- 9月は2度の3連休を中心にリピーター層の動きがよく、10月から11月にかけてはインセンティブツアーや職場旅行の動きが目立っている。

名古屋情報センター(名古屋地区)

- 機材の大型化や夏期臨時便の運航等による航空会社の提供座席数の増加及び台風による影響がなかったことなどにより、前年実績を上回った。
- 旅行会社の予約状況は好調に推移しており、また、11月からは日本航空の中部-沖縄線が2便から3便に増便されるため、好調に推移するものと見込まれる。

2. 海外

台北事務所(台湾)

- スタークルーズ社の台湾-沖縄クルーズの定期運航により海路客が大幅に増加している。また、空路も、航空会社との連携による“沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”が継続されていること及び“統一パック商品”の販売が好調であることにより、前年実績を上回った。
- なお、8月20日の中華航空機炎上事故の影響によるキャンセル等の大きな動きは、現在のところ起こっていない。
- スタークルーズ社の台湾-沖縄クルーズは10月頃まで運航が予定されており、また、9月、10月は高雄からのチャーター便等も予定されているため、順調に推移するものと見込まれる。

韓国事務所(韓国)

- 家族連れなどの個人旅行が順調に増加していることに加え、パッケージ商品の販売も好調であったことから、前年実績を上回った。
- アシアナ航空では10月下旬から運航曜日変更、11月から増便が予定されており、多様な商品造成が可能になることから、送客増が期待できる。また、9月末から10月頭にかけての連休には大韓航空のチャーター便運航が予定されていることから、順調に推移するものと見込まれる。

上海事務所(中国本土)

- 社員旅行などの団体ツアーがあったため、前年実績を上回った。
- 空路では、ツアーや社員旅行が予定されているほか、双方向チャーター便が予定されている。また、海路では、10月にクルーズ船「コスタ・アレグラ号」の寄港等が予定されているため、好調に推移するものと見込まれる。

入域観光客統計概況

—平成19年9月分—

9月の入域観光客数は、528,400人。前年同月比で+7.7%、38,000人の増加となった。
 なお、9月として初めて50万人を超え、過去最高の記録となった。
 4月～9月の入域観光客数の累計は、2,933,100人。前年度同期比で+4.9%、136,600人の増加となり、同期間の過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | |
|----|----------|---------|---------|------------|
| 県外 | 507,200人 | 前年同月比 + | 23,300人 | (+ 4.8%) |
| 外国 | 21,200人 | 前年同月比 + | 14,700人 | (+ 226.2%) |
| 合計 | 528,400人 | 前年同月比 + | 38,000人 | (+ 7.7%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | |
|------|----------|---------|---------|----------|-----------|
| 東京 | 259,100人 | 前年同月比 + | 18,000人 | (+ 7.5%) | 構成比 49.0% |
| 関西方面 | 103,900人 | 前年同月比 + | 5,700人 | (+ 5.8%) | 構成比 19.7% |
| 福岡方面 | 59,600人 | 前年同月比 + | 3,700人 | (+ 6.6%) | 構成比 11.3% |
| 名古屋 | 38,900人 | 前年同月比 + | 2,200人 | (+ 6%) | 構成比 7.4% |

3. 概況と見通し

国内客については、台風の影響を受けながらも、3連休が2回あったこと、航空会社の増便があったことなどにより、前年実績を上回った。

外国客については、定期クルーズ船の運航再開、香港からのチャーター便の増加、台湾の航空会社の沖縄路線の販売強化の継続等により、前年実績を大幅に上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、航空会社の増便や大型のコンベンションが予定されているため、おおむね好調に推移するものと見込まれる。

外国客については、海路では、台湾からのクルーズ船の定期運航に加え、不定期のクルーズ船の寄港も予定されていることから、好調に推移するものと見込まれる。空路についても、台湾、香港からのチャーター便運航が予定されているため、順調に推移するものと見込まれる。

4. 今後のトピックス

| 事項 | 内容 |
|---------------|---|
| 日本航空増便 | ・11月より「名古屋－那覇線」を1日1往復増便。 ・11月より「羽田－那覇線」を日曜日に1往復増便。 |
| スカイマーク増便 | 11月1日より「羽田－那覇線」を1日1往復増便。 |
| 主なコンベンション開催予定 | ○第30回日本高血圧学会総会 期日：平成19年10月25日(木)～27日(土) 場所：沖縄コンベンションセンター 参加予定人数：1,500人 ○第29回アーユルヴェーダ学会沖縄研究総会 期日：平成19年11月10日(土)～11日(日) 場所：沖縄コンベンションセンター 参加予定人数：1,200人 |

担当：観光企画課 三和
 TEL 098-866-2763
 FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

- 航空会社の増便にともない提供座席数が増加し、また、搭乗率も好調であったため、前年実績を上回った。
- 11月から日本航空及びスカイマークエアラインズの羽田ー那覇線がそれぞれ増便されるため、好調を維持していくものと見込まれる。

大阪事務所(関西地区)

- 航空会社の増便に加え、3連休が2回あり、また、昨年ほど台風の影響を受けなかったことにより、前年実績を上回った。
- 10月、11月は、大手旅行社や航空会社の予約状況はあまりよくない。対策として、付加価値をつけた個人向け商品が販売されるため、送客増につながることを期待したい。

福岡案内所(福岡地区)

- 3連休が2回あり、航空券や宿泊先等をインターネットで直接手配するリピーター層の動きがよく、前年実績を上回った。
- 紅葉ツアーとの競合もあるが、10月から11月にかけてはインセンティブツアーや職場旅行の動きがよいため、順調に推移するものと見込まれる。

名古屋情報センター(名古屋地区)

- 航空会社の提供座席数は減少したものの、学生向けの低価格の商品が多かったこと及び3連休が2回あったことにより、搭乗率が好調であり、前年実績を上回った。
- 10月から11月の見通しは、旅行社によってバラツキがあるものの、11月からの日本航空の中部ー沖縄線の増便があるため期待できる。

2. 海外

台北事務所(台湾)

- スタークルーズ社の台湾ー沖縄クルーズの定期運航により海路客が大幅に増加している。また、空路も、航空会社との連携による“沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”が継続されていること及び“統一パック商品”の販売が好調であること、高雄からの華信航空のチャーター便が2便あったこと、中秋節休暇(9月22日～24日)にあわせて臨時便の運航が2便あったことなどにより、前年実績を大きく上回った。
- なお、現時点では、8月の中華航空機炎上事故は、台湾の人々の旅行マインドに大きな影響を及ぼしていないとみられる。
- スタークルーズ社の台湾ー沖縄クルーズが、秋口は夏場よりやや集客が落ち込むと予想されるものの引き続き運航され、また、空路は、10月、11月にチャーター便の運航が予定されているため、順調に推移するものと見込まれる。

韓国事務所(韓国)

- 最大10日間の旧盆連休があったことにより、家族連れなどの個人旅行が順調に増加したことに加え、パッケージ商品の販売も好調であったこと、大韓航空のチャーター便があったことにより前年実績を大きく上回った。
- アシアナ航空では10月下旬から運航曜日変更、11月から増便が予定されており、多様な商品造成が可能になることから、送客増が期待できる。また、インセンティブツアーも多く予定されていることから、好調に推移するものと見込まれる。

上海事務所(中国本土)

- チャーター便を利用した社員旅行など、大型の団体旅行があったため、前年実績を上回った。
- 空路では、10月下旬から機材の大型化や周辺地域から上海を経由して乗り継ぎが可能な時間帯への変更が予定されているほか、団体旅行も予定されている。また、海路では、10月にクルーズ船「コスタ・アレグラ号」の寄港等が予定されているため、好調に推移するものと見込まれる。

入域観光客統計概況

—平成19年10月分—

10月の入域観光客数は、519,700人。前年同月比は±0.0%(△200人)で、同月としては過去2番目の記録となった。
4月～10月の入域観光客数の累計は、3,452,800人。前年度同期比は+4.1%、136,400人の増加となり、同期間の過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | |
|----|----------|-------|-----------|------------|
| 県外 | 488,300人 | 前年同月比 | △ 20,700人 | (△ 4.1%) |
| 外国 | 31,400人 | 前年同月比 | + 20,500人 | (+ 188.1%) |
| 合計 | 519,700人 | 前年同月比 | △ 200人 | (± 0.0%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | | |
|------|----------|-------|----------|----------|-----|-------|
| 東京 | 245,200人 | 前年同月比 | △ 4,300人 | (△ 1.7%) | 構成比 | 47.2% |
| 関西方面 | 85,500人 | 前年同月比 | △ 4,500人 | (△ 5.0%) | 構成比 | 16.5% |
| 福岡方面 | 59,300人 | 前年同月比 | △ 200人 | (△ 0.3%) | 構成比 | 11.4% |
| 名古屋 | 41,900人 | 前年同月比 | △ 2,000人 | (△ 4.6%) | 構成比 | 8.1% |

3. 概況と見通し

国内客については、前年10月に航空会社各社が期間限定の特別価格のバーゲンを実施した反動で、前年比では減少したものの、航空会社の提供座席数の増加等により好調を維持し、過去2番目の実績となった。

外国客については、定期クルーズ船の運航再開、台湾、香港、韓国からのチャーター便があったこと、台湾の航空会社の沖縄路線の販売強化の継続等により、前年実績を大幅に上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、旅行需要の低下や海外との競合等が懸念され、大きな伸びは期待できないが、航空会社の提供座席数の増加等により、おおむね堅調に推移するものと見込まれる。

外国客については、海路では、クルーズ船の寄港が予定されている12月までは好調に推移するものと見込まれる。空路についても、台湾、香港、韓国からのチャーター便運航が予定されているため、順調に推移するものと見込まれる。

4. 今後のトピックス

| 事項 | 内容 |
|--------------------------|--|
| 航空会社の沖縄キャンペーン | ○ ANA「マッター～ナ ホッコリ～ナ 沖縄・石垣・宮古キャンペーン」 期間: 11月1日～3月19日 内容: 特典ブック、無料バス運行 ○ JAL「美四季(biishiki) 沖縄篇」 期間: 12月1日～2月29日 内容: 特典ブック、抽選で沖縄の味覚プレゼント |
| 第23回NAHAマラソン | 12月2日(日)開催。昨年の参加者数21,046人(うち県外5,639人、外国248人)。 |
| 第20回サントピア沖縄名護・やんばるツデーマーチ | 12月8日(土)、9日(日)開催。昨年の参加者数2,157人(うち県外1,450人)。 内容: 名護・やんばるを舞台に2日間のウォーキングを楽しむ大会。 |
| 主なコンベンション開催予定 | ○ 第17回全国産業教育フェア沖縄大会 期日: 11月23日(金)～24日(土) 場所: 沖縄コンベンションセンター他6会場 参加予定人数: 延べ70,000人(うち県外1,800人) |

担当: 観光企画課 三和
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

- 航空会社の提供座席数の増加等により、好調を維持している。
- 関東地区の旅行需要は12月前半頃まで全体的に下落傾向にあるため、低価格のツアー造成等により各旅行会社が需要喚起に努めている。11月からの日本航空及びスカイマークエアラインズの羽田-那覇線の増便に期待したい。

大阪事務所(関西地区)

- 団体客が減少したものの、修学旅行やグループ旅行が好調であった。
- 11月、12月は、修学旅行が若干減少しているものの、各旅行社とも引き続き個人旅行やグループ旅行が好調に推移するものと見込まれる。

福岡案内所(福岡地区)

- 紅葉ツアーの媒体告知におされ、これまで好調だった小グループ旅行の動きが緩慢だったものの、インセンティブツアーや職場旅行が好調であった。
- 11月から2月までは修学旅行の動きがよいが、一般客の動きは芳しくない。正月は、昨年より問い合わせ、申し込みが少ない。長期連休が取りやすい日並びであるため、東南アジア、ハワイを中心に海外旅行がよく売れている模様。

名古屋情報センター(名古屋地区)

- 前年10月に航空会社各社が期間限定の特別価格のバーゲンを実施した反動及び今年の航空運賃の値上げにより前年比では減少したものの、提供座席数の増加等により好調を維持している。
- 11月は、日本航空の増便があった割には伸びていない。12月は、旅行社により好不調の見通しが異なっている。国内客の一部が、割安感のある海外に流れている懸念がある。

2. 海外

台北事務所(台湾)

- スタークルーズ社の台湾-沖縄クルーズの定期運航により海路客が大幅に増加している。また、空路も、航空会社との連携による“沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”が継続されていること及び“統一パック商品”の販売が好調であること、高雄からの華信航空のチャーター便が8便あったことなどにより、前年実績を大きく上回った。
- 例年通り冬場は旅客数が減少すると見込まれる。また、2008年1月に立法院選挙、3月に総統選挙が控えており、台湾の人々は選挙前は旅行等の娯楽を控える傾向にあるため、旅行業界全体が若干苦戦するものと予想されている。しかし、1月から立栄航空、華信航空の2社が高雄-那覇間の長期チャーターを運航予定であるため、台湾南部から安定的かつ継続した送客が実現すると見込まれる。

韓国事務所(韓国)

- 10月はパッケージ旅行をはじめ、個人旅行も低迷したが、大韓航空のチャーター便1便、秋の結婚シーズンのハネムーン需要、各種インセンティブツアー等により、前年より増加した。
- アシアナ航空が11月からのゴルフシーズンを迎え、週3便(火・木・日)から週5便(月・火・木・土・日)に増便するほか、12月から3月にかけて不定期便(水・日)も予定している。また、大韓航空が1月から2月にかけて、チャーター便を11便運航する予定であることから、大幅な送客増が期待できる。

上海事務所(中国本土)

- 海路ではコスタクルーズ社のクルーズ船の寄港が2度あり、空路では団体旅行等もあったため、前年実績を大幅に上回った。
- 10月下旬から中国東方航空の使用機材が定員119人から155人に大型化されており、また、11月からのツアー造成、2月の春節連休時のチャーター便造成等の動きもあることから、堅調に推移するものと見込まれる。

入域観光客統計概況

—平成19年11月分—

11月の入域観光客数は、486,300人。前年同月比は+2.5%(+11,800人)で、同月としては過去最高の記録となった。

4月～11月の入域観光客数の累計は、3,939,100人。前年度同期比は+3.9%、148,200人の増加となり、同期間の過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | | |
|----|----------|-------|---|---------|----------|
| 国内 | 468,600人 | 前年同月比 | + | 6,600人 | (+1.4%) |
| 外国 | 17,700人 | 前年同月比 | + | 5,200人 | (+41.6%) |
| 合計 | 486,300人 | 前年同月比 | + | 11,800人 | (+2.5%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | | | |
|------|----------|-------|---|--------|---------|-----|-------|
| 東京 | 220,700人 | 前年同月比 | + | 2,600人 | (+1.2%) | 構成比 | 45.4% |
| 関西方面 | 81,100人 | 前年同月比 | + | 3,700人 | (+4.8%) | 構成比 | 16.7% |
| 福岡方面 | 60,300人 | 前年同月比 | + | 300人 | (+0.5%) | 構成比 | 12.4% |
| 名古屋 | 42,800人 | 前年同月比 | + | 3,700人 | (+9.5%) | 構成比 | 8.8% |

3. 概況と見通し

国内客については、前年あった3連休が今年はなかったこと等により堅調な伸びとなったが、航空会社の増便等による提供座席数の増加により好調を維持し、前年実績を上回った。

外国客については、定期クルーズ船の運航、香港からのチャーター便があったこと、台湾の航空会社の沖縄路線の販売強化の継続等により、前年実績を大幅に上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、日並びの良い年末年始を中心に、順調に推移すると見込まれるが、一方で海外との競合も懸念される。

外国客については、海路では、クルーズ船の寄港が予定されている12月までは好調に推移するものと見込まれる。空路については、台湾、香港、韓国からのチャーター便運航等の予定があるため、順調に推移するものと見込まれる。

4. 今後のトピックス

| 事項 | 内容 |
|--------------|---|
| 第108回杜の賑い・沖縄 | <p>日時：平成20年1月26日(土)・27日(日) 第1回公演13:00～ 第2回公演17:00～</p> <p>場所：沖縄コンベンションセンター展示棟</p> <p>参加者予定人数：県外8,000人～9,000人</p> <p>内容：四つ竹、獅子舞、エイサーなど伝統芸能・創作芸能が満載のステージ。スペシャルゲストは夏川りみ。沖縄開催25周年記念として函館子ども歌舞伎援護会の演舞も見所。</p> <p>主催：JTB・JTB沖縄</p> <p>後援：(財)沖縄観光コンベンションビューロー</p> <p>備考：県外から同ツアー参加申込が必要。</p> |

担当：観光企画課 三和
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

- 航空会社の増便等による提供座席数の増加や修学旅行の好調の維持により、前年を上回った。
- 年末年始は例年どおり好調を維持するものと見込まれる。

大阪事務所(関西地区)

- 11月初旬は、個人客、団体客とも集客はよくなかったものの、中旬以降は各旅行社の企画商品が好調で、月間では前年を上回る結果となった。
- 全体の旅行需要は縮小傾向であるが、沖縄人気は底堅い。年末年始は、前年を上回る集客が見込まれているほか、12月から3月まで、企画商品が好調に集客している。

福岡案内所(福岡地区)

- 団体旅行の参加人数減少などがあったが、航空機材の大型化による提供座席数の増加があり、前年並みを維持した。
- 年末年始は、例年より集客がよくない。長期連休が取りやすい日並びであるため、東アジア、ハワイを中心に海外旅行がよく売れている模様。

名古屋情報センター(名古屋地区)

- 11月からの日本航空の増便等による提供座席数の増加や、旅行社のキャンペーン商品の販売等により、前年実績を大きく上回った。
- 年末年始を含め、12月以降の集客はよくない。景況感は悪くないが、国内旅行需要に結びついていないことから、海外に流れている懸念がある。

2. 海外

台北事務所(台湾)

- スタークルーズ社の台湾ー沖縄クルーズの定期運航が11月までであったことから、海路客が大幅に増加した。
また、空路も、航空会社との連携による“沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”が継続されていること及び“統一パック商品”の販売が好調であることなどにより、堅調に推移した。
- 2月以降高雄、台北からのチャーター便が運航予定であるため、堅調に推移するものと見込まれるが、1月に立法院選挙、3月に総統選挙が控えており、旅行業界全体が若干苦戦するものと予想されている。

韓国事務所(韓国)

- 冬場のゴルフシーズンを迎え、アジアナ航空の増便があり、ゴルフ客やハネムーン、個人客の増加に加え、インセンティブツアー等の団体客も増加したため、前年実績を上回った。
- 1月からは冬休みの旅行シーズンを迎え、ゴルフ旅行商品や個人旅行が好調に販売されており、また、大韓航空によるチャーター便も11便運航予定であることから、大幅な送客増が期待できる。

上海事務所(中国本土)

- 11月は沖縄ツアーの実施がなかったことから、前年実績を下回った。
- 旅行会社のツアー造成に向けた動きや、現地女性ファッション雑誌の沖縄特集などの企画もあることから、1月～3月の需要喚起が期待できる。

入域観光客統計概況

－平成19年12月分－

12月の入域観光客数は、471,000人。前年同月比は+3.5%(+15,900人)で、同月としては過去最高の記録となった。

4月～12月の入域観光客数の累計は、4,410,100人。前年度同期比は+3.9%、164,100人の増加となり、同期間の過去最高の記録となった。

なお、平成19年1月～12月の入域観光客数は、5,869,200人。対前年比は+4.1%(+231,400人)で、過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | | |
|----|----------|-------|---|---------|-----------|
| 国内 | 459,800人 | 前年同月比 | + | 10,400人 | (+ 2.3%) |
| 外国 | 11,200人 | 前年同月比 | + | 5,500人 | (+ 96.5%) |
| 合計 | 471,000人 | 前年同月比 | + | 15,900人 | (+ 3.5%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | | | |
|------|----------|-------|---|---------|----------|-----|-------|
| 東京 | 229,100人 | 前年同月比 | + | 12,100人 | (+ 5.6%) | 構成比 | 48.6% |
| 関西方面 | 81,900人 | 前年同月比 | + | 4,000人 | (+ 5.1%) | 構成比 | 17.4% |
| 福岡方面 | 55,200人 | 前年同月比 | - | 500人 | (- 0.9%) | 構成比 | 11.7% |
| 名古屋 | 41,000人 | 前年同月比 | + | 1,700人 | (+ 4.3%) | 構成比 | 8.7% |

3. 概況と見通し

国内客については、年末年始の日並びがよかったこと、那覇マラソンへの県外からの参加者の増加などにより、前年実績を上回った。

外国客については、クルーズ船の寄港や香港からのチャーター便があったことに加え、韓国からの航空会社の増便があったため、前年実績を大幅に上回った。

今後の見通しとしては、国内客については現段階では動きが鈍いものの、2月から3月にかけて航空会社の沖縄路線の運賃値下げもあることから、堅調に推移すると見込まれる。

外国客については、韓国の定期便の増便に加え、台湾、香港、韓国からのチャーター便運航等の予定があるため、順調に推移するものと見込まれる。

4. 今後のトピックス

| 事項 | 内容 |
|---------------|---|
| 沖縄花のカーニバル2008 | <p>期間:平成20年1月19日(土)～5月6日(火)</p> <p>内容:花を愛し育てる心を根づかせ、美しい花々でおもてなしができる“フラワーアイランドオキナワ”を目指し、Welcome Flowerキャンペーン(県内各ホテル)、花のメッセージコンテスト(県内小中学校)、空港飾花のほか、花のカーニバルイベントを県内各地で開催。</p> <p>主催:(財)沖縄観光コンベンションビューロー</p> <p>1月～2月の主なイベント:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今帰仁グスク花まつり 平成20年1月19日(土)～2月10日(日) 今帰仁城跡 ・沖縄国際洋蘭博覧会 平成20年2月2日(土)～2月11日(月) 海洋博公園 ・本部八重岳桜祭り 平成20年2月2日(土)～2月11日(月) 八重岳桜の森公園 |

担当:観光企画課 三和
 TEL 098-866-2763
 FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

- 年末年始の日並びがよく長期休暇を取りやすかったこと、航空会社の増便等による提供座席数の増加などにより、前年実績を上回った。
- 1月は、年始は好調であるが、その後は反動減が見込まれる。旅行直前になって予約をする人が増えているため、2月以降については今のところ動きがよくない。

大阪事務所(関西地区)

- 12月前半は修学旅行が前年並みに動いて下支えし、後半は各旅行社の企画商品が好調だったため、前年実績を上回った。
- 旅行直前になって予約をする人が増えているため、今のところ個人旅行客の動きは鈍い。2月から3月頃のシニアのグループ客の動きはよくなってきている。

福岡案内所(福岡地区)

- 福岡は、近距離の海外旅行との競合によりわずかに前年を下回った。しかし、沖縄の宿泊施設が増加したことにより出発直前の予約が可能となり、立ち上がりが比較的遅い、地方からの旅行客が伸びた。
- 2月までは前年並みの集客が見込まれる。3月は、現段階では出足がよくない。

名古屋情報センター(名古屋地区)

- 強風により12月31日午前に中部国際空港の発着ができなくなった影響で、那覇行き4便の欠航があったものの、日本航空の増便に伴う提供座席数の増加、旅行会社の企画商品販売による需要喚起、年末年始の日並びがよかったことにより、前年実績を上回った。
- 旅行会社の集客状況は、1月、2月は各社とも前年を上回っているが、3月は厳しい見通しの社もある。

2. 海外

台北事務所(台湾)

- 空路客は、航空会社との連携による“沖縄リゾートショッピング共同プロモーション”が継続されていること及び“統一パック商品”の販売が好調であることなどにより、堅調に推移した。
- 1月に立法院選挙、3月に総統選挙が控えており、旅行業界全体が若干苦戦するものと予想されているが、2月は、高雄、台北からのチャーター便の運航や、上旬の旧正月(春節)休暇により、堅調に推移するものと見込まれる。

韓国事務所(韓国)

- 冬場のゴルフシーズンを迎え、アジアナ航空の増便があった。また、それに伴い、各旅行会社がフリープランのツアー販売に力を入れたことから、大幅に前年実績を上回った。
- 1月から2月にかけては、アジアナ航空の週7便に加え、大韓航空のチャーター便も10便運航予定であるため、ゴルフ客や個人旅行客の増加が期待できる。

上海事務所(中国本土)

- 12月は、前年実績は上回ったものの、沖縄ツアーの実施がなかったことから低調に推移した。
- 1月はツアーの実施には至らない見通しだが、2月は、旧正月の大型連休は上海-沖縄便は予約でほぼ満席の状況であり、また、旅行会社のツアー造成に向けた動きも活発であることから、送客増が期待できる。

入域観光客統計概況

－平成20年1月分－

1月の入域観光客数は、434,700人。前年同月比は△0.3%(△1,100人)となったが、同月としては過去2番目の記録となった。
平成19年4月～平成20年1月の入域観光客数の累計は、4,844,800人。前年度同期比は+3.5%、163,000人の増加となり、同期間の過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | | |
|----|----------|-------|---|--------|-----------|
| 国内 | 425,800人 | 前年同月比 | △ | 2,900人 | (△ 0.7%) |
| 外国 | 8,900人 | 前年同月比 | + | 1,800人 | (+ 25.4%) |
| 合計 | 434,700人 | 前年同月比 | △ | 1,100人 | (△ 0.3%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | | | |
|------|----------|-------|---|---------|----------|-----|-------|
| 東京 | 208,300人 | 前年同月比 | + | 11,300人 | (+ 5.7%) | 構成比 | 47.9% |
| 関西方面 | 78,400人 | 前年同月比 | △ | 1,200人 | (△ 1.5%) | 構成比 | 18.0% |
| 福岡方面 | 49,200人 | 前年同月比 | △ | 2,900人 | (△ 5.6%) | 構成比 | 11.3% |
| 名古屋 | 41,500人 | 前年同月比 | + | 1,800人 | (+ 4.5%) | 構成比 | 9.5% |

3. 概況と見通し

国内客については、東京、名古屋方面を中心に好調を維持したものの、札幌便の休止や機材の小型化など航空会社の提供座席数の減少により、わずかに前年実績を下回った。

外国客については、香港や韓国からのチャーター便があったことや、韓国からの航空会社の増便があったため、前年実績を上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、方面によっては航空会社の提供座席数の減少の影響があるものの、2月から3月の運賃値下げ幅の大きい東京方面を中心に、堅調に推移すると見込まれる。

外国客については、韓国の航空定期便の増便に加え、2月以降クルーズ船の寄港が昨年より増加することから、順調に推移するものと見込まれる。

4. 今後のトピックス

| 事項 | 内容 |
|---------------------------|---|
| 第21回ダイキンオーキッドレディスゴルフーナメント | 期間：平成20年3月7日(金)・8日(土)・9日(日) 開催地：琉球ゴルフ倶楽部(南城市) |
| 第5回全国ほんもの体験フォーラムinおきなわ | 期日：平成20年3月7日(金)～3月9日(日) 開催場所：メイン会場 うるま市石川会館 体験ツアー 恩納村、うるま市、読谷村、東村、伊江村、糸満市、南城市 内容：体験型観光の先進地や旅行会社の方々をお招きし、受地の価値の再発見と全国に誇れる“ほんもの体験”の理念や手法についてともに考え、関係者が幅広く交流する機会として開催される。 主催：第5回全国ほんもの体験フォーラムinおきなわ実行委員会 |
| 第38回日本人工関節学会 | 期日：平成20年3月2日(日) 開催場所：沖縄コンベンションセンター 参加人数：約2,000人(海外10人、県外1,500人、県内500人) |

担当：観光企画課 三和
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

- 1月中旬以降は正月休み明けの反動減が予想されていたが、1月に入って直前の予約が増加したことにより、結果的に前年実績を上回った。
- 3月までは旅行会社の集客状況はよくない。4月以降は、航空運賃の上昇にもかかわらず前年並みのツアー料金で商品造成がなされていることから値頃感があり、期待できる。

大阪事務所(関西地区)

- 引き続き企画商品の投入があったものの、航空会社の機材小型化に伴う提供座席数の減少の影響により、前年実績を下回った。
- 各旅行会社が4月からの上期商品を発売しているが、現時点では前年度より動きが鈍い。東京ディズニーランド25周年関連の商品発売を見越し、様子見の感がある。

福岡案内所(福岡地区)

- 航空会社の機材小型化に伴う提供座席数の減少により、旅行会社が団体旅行商品等を増やすことが困難となったことなどから前年を下回った。
- 航空会社の機材の一部大型化が予定されていることから、一定の送客増が期待できる。

名古屋情報センター(名古屋地区)

- 日本航空の増便に伴う提供座席数の増加により、前年実績を上回った。
- 旅行会社の集客状況は、前年よりよくないか前年並み程度となっている。

2. 海外

台北事務所(台湾)

- 1月12日の立法院選挙に伴う消費者の旅行マインド低下、春節(2月初旬)前の旅行手控えなどがあったものの、前年並みを維持し、堅調に推移したといえる。
- 3月の総統選挙を控え、旅行業界全体が若干苦戦するものと予想されているが、3月末からスタークルーズ社のクルーズ船の定期運航が開始予定であるため、堅調に推移するものと見込まれる。

韓国事務所(韓国)

- アシアナ航空の増便や大韓航空のチャーター便運航があったことによりゴルフ客等が増加し、大幅に前年実績を上回った。
- 引き続きアシアナ航空の増便による送客増が期待できるため、好調に推移するものと見込まれる。

上海事務所(中国本土)

- 1月は、石垣へのツアーがあったことなどにより、前年実績を上回った。
- 2月、3月は、クルーズ船「ラブソディー・オブ・ザ・シーズ号」の寄港があるほか、団体ツアーの造成等の予定もあるため、好調に推移するものと見込まれる。

入域観光客統計概況

—平成20年2月分—

2月の入域観光客数は、483,800人。前年同月比は+3.9%(+18,200人)で、同月としては過去最高の記録となった。

平成19年4月～平成20年2月の入域観光客数の累計は、5,328,600人。前年度同期比は+3.5%、181,200人の増加となり、同期間の過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | |
|----|----------|-------|----------|----------|
| 国内 | 467,600人 | 前年同月比 | +12,000人 | (+2.6%) |
| 外国 | 16,200人 | 前年同月比 | +6,200人 | (+62.0%) |
| 合計 | 483,800人 | 前年同月比 | +18,200人 | (+3.9%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | | |
|------|----------|-------|----------|----------|-----|-------|
| 東京 | 227,700人 | 前年同月比 | +16,900人 | (+8.0%) | 構成比 | 47.1% |
| 関西方面 | 85,700人 | 前年同月比 | +3,200人 | (+3.9%) | 構成比 | 17.7% |
| 福岡方面 | 58,300人 | 前年同月比 | +300人 | (+0.5%) | 構成比 | 12.1% |
| 名古屋 | 45,800人 | 前年同月比 | +5,100人 | (+12.5%) | 構成比 | 9.5% |

3. 概況と見通し

国内客については、うるう年のため1日分入域観光客数が多かったことや、航空会社の値下げや増便があったため、前年実績を上回った。

外国客については、香港からのクルーズ船の寄港、アジア各地からの航空チャーター便があったことや、韓国からの航空会社の増便があったため、前年実績を上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、4月からの航空運賃値上げや円高による海外との競合などが懸念されるものの、比較的好調に集客している方面が多いことから、堅調に推移するものと見込まれる。

外国客については、クルーズ船の寄港が増えることに加え、4月から香港からの定期便が就航するため、順調に推移するものと見込まれる。

4. 今後のトピックス

| 事項 | 内容 |
|--|---|
| 琉球海炎祭 2008 ～日本で一番早い夏の大火火～ | 期日：平成20年4月12日(土) 場所：宜野湾海浜公園・トロピカルビーチ 内容：音楽に合わせて約10,000発もの花火が夜空を彩る。今回は5周年特別企画として、相武紗季さんによるカウントダウン、華道家・假屋崎省吾氏のいけ花を再現した花火や、花火をバックにテノール歌手・新垣勉氏による歌のステージ、エイサーと高知のよさこい踊りのコラボレーションなど、見所満載。 主催：琉球海炎祭実行委員会 来場予定者数：10万5千人 |
| 2008 Ishigaki BG Triathlon World Cup & 2008 石垣島トライアスロン大会 | 期日：平成20年4月13日(日) 出場予定者数：1,460名 大会概要：石垣島で開催される、日本のトライアスロンシーズンの幕開けとなる大会。国内外のトップアスリートたちが、世界選手権やオリンピックへの出場資格を賭けて挑戦する、ITU(国際トライアスロン連合)公認のワールドカップ部門と一般部門が、午前午後に分けて開催される。 主催：「2008 Ishigaki BG Triathlon World Cup & 2008 石垣島トライアスロン大会」組織委員会 |
| 海びらき | 3月22日(土)の「あざまサンサンビーチ海開き」を皮切りに、沖縄各地で3月下旬から4月にかけて、海びらきが各地で行われる。 |

担当：観光企画課 三和(みわ)

TEL 098-866-2763

FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

- 航空会社の増便、運賃割引があったことなどにより、前年実績を上回った。また、11月に札幌ー那覇直行便が運休したことに伴い、北海道からの旅客が東京経由で来沖するようになっている。
- 4月は、航空運賃の上昇にもかかわらずほぼ前年並みの予約状況となっている。

大阪事務所(関西地区)

- 航空会社の機材小型化に伴う提供座席数の減少の影響があったものの、引き続き旅行会社の企画商品が好調であったことなどにより、前年実績を上回った。
- 春休みに入り、卒業旅行などのグループ商品が好調なため、堅調に推移するものと見込まれる。

福岡案内所(福岡地区)

- 航空会社の機材小型化に伴う提供座席数の減少などにより、グループ・団体旅行商品を中心に動きがよくなかった。
- 引き続き、グループ・団体旅行向けの航空機の座席確保がしにくい状況が続くと見込まれ、送客増は厳しい。

名古屋情報センター(名古屋地区)

- 日本航空の増便に伴う提供座席数の増加や中日ドラゴンズのキャンプ観戦需要などにより、前年実績を上回った。
- 旅行会社の企画商品が好調なため、堅調に推移するものと見込まれる。

2. 海外

台北事務所(台湾)

- 3月の総統選挙や物価の急激な値上がりによる影響で消費者の旅行マインドが低下したため、本来は送客が増加する旧正月に伸び悩み、前年をわずかに下回った。
- 3月末からスタークルーズ社のクルーズ船の定期運航が開始予定であるため、海路客は好調に推移するものと見込まれるが、空路については、燃料の高騰に伴う航空運賃の値上げの影響が懸念される。

韓国事務所(韓国)

- アシアナ航空の増便や大韓航空のチャーター便運航があったことや、インセンティブツアーの増加に加え、韓国プロ野球3球団のキャンプやそのファンツアーがあったことにより、大幅に前年実績を上回った。
- 3月からはアシアナ航空の減便があり、また、航空燃料高騰や韓国国内の景気沈滞により、大幅な送客増は期待できない。

上海事務所(中国本土)

- 団体ツアーなどがあったことから、前年実績を上回った。
- 3月は団体ツアーがあり、また、3月末に上海で行われる旅行博覧会にOCVBが出展するため、4月以降もツアー商品造成が促進され、好調に推移するものと見込まれる。

香港事務所(香港)

- 2月は、チャーター便の運航があったことや、クルーズ船「ラプソディー・オブ・ザ・シーズ号」の寄港があったことなどにより、前年実績を大きく上回った。
- 3月は、チャーター便の運航やクルーズ船「ラプソディー・オブ・ザ・シーズ号」の寄港があり、また、4月からは香港エクスプレス航空の定期便が就航するため、大幅な送客増が見込まれる。

入域観光客統計概況

—平成20年3月分—

3月の入域観光客数は、563,700人。前年同月比は+1.1%(+6,000人)で、同月としては過去最高の記録となった。

1. 国内外別入域状況

| | | | | | |
|----|----------|-------|---|--------|-----------|
| 国内 | 550,700人 | 前年同月比 | △ | 200人 | (± 0.0%) |
| 外国 | 13,000人 | 前年同月比 | + | 6,200人 | (+ 91.2%) |
| 合計 | 563,700人 | 前年同月比 | + | 6,000人 | (+ 1.1%) |

2. 主要航路別入域状況

| | | | | | | | |
|------|----------|-------|---|---------|----------|-----|-------|
| 東京 | 264,400人 | 前年同月比 | + | 10,600人 | (+ 4.2%) | 構成比 | 46.9% |
| 関西方面 | 107,300人 | 前年同月比 | + | 3,100人 | (+ 3.0%) | 構成比 | 19.0% |
| 福岡方面 | 64,900人 | 前年同月比 | + | 800人 | (+ 1.2%) | 構成比 | 11.5% |
| 名古屋 | 54,900人 | 前年同月比 | + | 1,600人 | (+ 3.0%) | 構成比 | 9.7% |

3. 概況と見通し

国内客については、主要路線での航空会社の増便に加え、羽田—那覇線について航空運賃の値下げがあったことなどにより、前年並実績を維持した。

外国客については、台湾や香港などからのクルーズ船の寄港、香港からの航空チャーター便があったことなどにより、前年実績を上回った。

今後の見通しとしては、国内客については、4月からの航空運賃値上げの影響などが懸念されるものの、ゴールデンウィークは概ね前年並で推移するものと見込まれる。

外国客については、クルーズ船の寄港が増えることに加え、4月に就航した香港との定期直行便が好調に集客しているため、順調に推移するものと見込まれる。

4. 今後のトピックス

| 事項 | 内容 |
|--------------------|--|
| G8科学技術大臣会合 | 開催時期:平成20年6月15日(日) 場所:万国津梁館(名護市) 目的:北海道洞爺湖サミットに先立ち、地球規模の課題の解決に向けた科学技術協力の強化等について議論するため、初めてのG8科学技術大臣会合を我が国で開催する。 参加予定国・機関:日本、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、英国、米国、EU、ブラジル、中国、インド、韓国、メキシコ、フィリピン、南アフリカの16の国・機関 |
| 第34回那覇ハーリー | 期日:平成20年5月3日(土)~5日(月) 場所:那覇新港ふ頭(那覇市安謝) 参加者数:22万人見込み 問い合わせ先:那覇ハーリー実行委員会 098-862-1442 |
| 第9回ビーチバレー宮古島大会2008 | 期日:平成20年5月17日(土)~18日(日) 場所:ウエンディまいばま(宮古島市下地与那覇前浜) 参加者数:6,900人予定(選手、観客の計) 問い合わせ先:ビーチバレー宮古島大会実行委員会 0980-75-3824 |

担当:観光企画課 三和(みわ)
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

- 航空会社の増便、運賃割引があったことなどにより、前年実績を上回った。また、燃油高などの影響で海外旅行が国内旅行へシフトし、沖縄へも一部流れたものとみられる。
- 4月から6月は、前年並みに推移するものと見込まれる。ゴールデンウィークは、日並びの影響で5月3、4、5日に集中しているが、全体としては前年並みの見込み。

大阪事務所(関西地区)

- ツアー費用が高い離島方面への商品の売れ行きはよくなかったが、本島リゾートホテルへの格安商品の人気が高く好調であったことなどにより、前年実績を上回った。
- 4月は個人客の企画商品が好調で、5月・6月は修学旅行、インセンティブツアー等が好調に動いているため、順調に推移するものと見込まれる。

福岡案内所(福岡地区)

- グループ・団体旅行の動きはよくなかったものの、3月20日からの飛び石連休や春休みはファミリー層の動きがよかった。
- ゴールデンウィークは、5月3・4・5日が圧倒的に多い。

名古屋情報センター(名古屋地区)

- 日本航空の増便に伴う提供座席数の増加や臨時便の運航により、前年実績を上回った。
- 4月は比較的堅調だが、5月・6月は、旅行会社によっては集客がよくない。

2. 海外

台北事務所(台湾)

- スタークルーズ社のクルーズ船が3月末から定期運航を開始したため、海路は大幅増となった。空路は、大手旅行社が低価格のホテルパック商品や高品質商品を発売し、積極的にプロモーションを行ったことなどにより、堅調に推移した。
- スタークルーズ社のクルーズ船の定期運航により、海路客は好調に推移するものと見込まれる。空路も、旅行会社のプロモーションが積極的に展開されることが予想されるため、順調に推移するものと見込まれる。

韓国事務所(韓国)

- アシアナ航空の定期便減便などによる提供座席不足や、運賃値上げがあったことにより、予定されていたツアーの取り消しや個人旅行商品の販売低迷があり、前年を下回った。
- 原油価格高騰や韓国国内の景気沈滞などにより、海外旅行を手控える傾向が続くとみられるが、小規模のインセンティブツアーの伸びなどもあることから、前年同期並程度は期待できる。

上海事務所(中国本土)

- 香港からのクルーズ船「ラプソディー・オブ・ザ・シーズ号」への乗船があったことなどにより、前年実績を上回った。
- クルーズ船の寄港予定があるほか、空路でも4月の清明節(4/4~6)や5月の労働節(5/1~3)にツアー造成があるため、好調に推移するものと見込まれる。

香港事務所(香港)

- 3月は、チャーター便の運航があったことや、クルーズ船「ラプソディー・オブ・ザ・シーズ号」の寄港があったことなどにより、前年実績を大きく上回った。
- 4月からは、香港エクスプレス航空の定期便が就航し、大幅な送客増が見込まれる。4月、5月の定期便は、ほぼ完売している。一般向け、旅行会社向け両面でのPR活動が奏功している。